

## ケンペルの採集した植物標本

日本の植物の近代的な分類学的研究は、リンネ Carl von Linné の弟子であったツェンペリー Carl Peter Thunberg (1775 年に来日) に始まり、シーボルト Philipp Franz von Siebold (1823 年に来日; ツツカリーニ Joseph Gerhard Zuccarini と研究) らを経て、サヴァチェ Paul Amedee Ludovic Savatier (1866 年に来日; フランシェ Adrien Rene Franchet と研究) へと続き、明治維新後、徐々に日本人研究者へと引き継がれていきます。しかし、日本の植物は、それより 50 年以上前に、ケンペル Engelbert Kaempfer

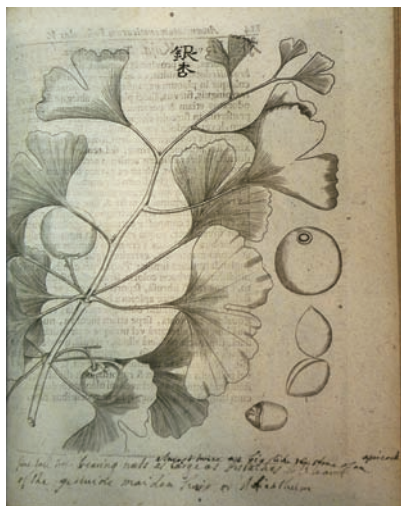


図1 『廻国奇観』のイチョウの図 (当館所蔵).



図2 ロンドン自然史博物館のハンス・スローンのコレクション.



図3 ケンペルが箱根で採集したハコネシダ (ロンドン自然史博物館 NHM 所蔵).

(1690 年に来日) により西洋に紹介されてきました。ケンペルは、1712 年に出版された『廻国奇観 Amoenitatum exoticarum』の 5 巻に収められた「日本植物 Plantarum japonicarum」で日本の植物について報告していますが、これは 1753 年に出版されたリンネの『植物の種 Species Plantarum』以前の出版物であるため、学名の命名者にはなっていません。とは言え、リンネはケンペルの『廻国奇観』の挿絵や記述に従い、イチョウ *Ginkgo biloba* L. (図1) やツバキ *Camellia japonica* L. などの日本の植物を命名しています。また、後世の学者がケンペルに献名した日本の植物に、ヤマツツジ *Rhododendron kaempferi* Planch. やツルコウゾ *Broussonetia kaempferi* Siebold などがあり、ケンペルの業績は今も生きています。

ケンペルの死後、その遺品の多くは、3 代のイギリス国王の侍医で、熱心な収集家だったハンス・スローン Hans Sloane



図4 イチョウの標本 (ロンドン自然史博物館 NHM 所蔵).

に売却されました。その標本は、他のスローンのコレクションとともに、大英博物館の自然史部門の基礎をつくり、現在は、英国のロンドン自然史博物館 The Natural History Museum (NHM) に残されています。スローンの収集した植物標本は、台紙が

製本された状態で保管されています (図2)。ケンペルが箱根で採集したハコネシダ (ハコネシダ) は多数の標本が台紙一面に貼られ (図3)、イチョウは一枚の葉が貼られています (図4)。この標本群は、ハンス・スローンの歴史的なコレクションとして、2009 年に開館したダーウィンセンターの一角で、「Our historical heart」として展示の一部をなしています (図5)。



図5 ロンドン自然史博物館・ダーウィンセンターの「Our historical heart」の展示.

なお、ケンペルが日本で採集した植物標本は同定され、目録化されています (Hinz, 2001. Bulletin of the Natural History Museum, Botany, Vol: 31: 27-34) ので、興味のある方はご一読ください。

自然科学のとびら  
第20巻3号 (通巻78号)  
2014年12月15日発行  
発行者 神奈川県立生命の星・地球博物館  
館長 平田大二  
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499  
Tel: 0465-21-1515 Fax: 0465-23-8846  
<http://nh.kanagawa-museum.jp/>  
編集 大島光春  
印刷 文化堂印刷株式会社

© 2014 by the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History.

